

年頭挨拶

学園のさらなる発展を求めて

新年あけましておめでとうございます。
皆さんは夫々に新たな抱負と希望を持って新年をお迎えになられたこと
と思います。本年が教職員、学生、そして同窓生の皆さんにとりて充実した良
い年となりますよう心から祈念いたします。

昨年私学を取り巻く環境が急速に変化する中、本学園発展のために
永年にわたりご指導をいただいた田中前理事長を突然失い、哀しみを乗り
越えての厳しい船出を余儀なくされましたが、皆さんのご尽力、ご協力によ
り、この新しい年をつつがなく迎えられましたことに大変感謝しております。

本年は、歯科医学、歯科医療の未来を切り拓くべく、田中前理事長が献身
的に準備にあたられた第23回日本歯科医学会総会の開催を始め、国家試
験対策等の学生教育の充実、病院新築を踏まえたキャンパスランドデザイ
ンの構築、病院／口腔医療センターの管理運営に関する改革、短期大学や介
護老人保健施設の将来構想の策定、看護大学新設等、医療保健・福祉の総
合学園として、「入りやすい大学」ではなく「学生が学びたい大学」、「学生が
意欲を持って学び、卒業生が誇れる母校」、「地域の医療保健・福祉への貢献」
をモットーに多くの課題に迅速かつ意欲的に取り組み、適切に対応したいと
考えております。

それでは本年の重点項目を述べます。

(1) 口腔医学の育成として

日本歯科医学会総会において口腔医学の理念に基づく学術プログラムを
実地する。また、多職種連携を円滑に実地し、チーム医療に関する教育効果
の向上を図る。

(2) 教育の質的転換として

今年2016年ですが、皆さんは5年後の2020年がどんな年になる
かご存知でしょうか？オリンピックの年というだけではありません。この年を境



福岡学園 理事長 水田 祥代



に18歳人口は120万人台を割り、更にその後減少は加速します。すなわち
受験生の減少です。そこで考えなければいけないことは日本の高等教育が量
的拡大から質的革新へと大きな転換が必要となることです。従ってそれまでの
5年間に何をすべきか、何が必要かということを考えなければいけません。

本学では大学教育再生加速プログラムの取組みに基づくシラバスを作成
し、行動目標とディプロマポリシーとの関連付け、行動目標の学士力分類、評
価基準の平準化を推進するほか、FDやワークシヨプの開催による教育の
質の向上を図るとともに、歯科医師国家試験において新卒者合格率の上位
定着と共用試験の全員合格を目指す。また、歯科衛生士国家試験について
は全員合格を目指す。さらに、優れた学生の確保のために選抜方法の在り方
について検討する。

(3) 研究の質的転換として

全学的な生命科学研究マネジメント体制を充実強化し、国際水準の研究
成果を提供する。優秀な学部学生を本学の大学院へ進学させ、大学院生の
定員確保及びレベルアップに努めるとともに、各研究センターとの連携を深め
て、大学院の活性化を図る。

(4) 保健福祉への貢献として

地域のニーズに応じた介護老人保健・福祉モデル事業を開発・推進すると
ともに、教育研究・研修機能を強化する。

(5) 組織運営、財務について

第3次中期構想(2017-2022)を策定するほか、全学の人事計
画に基づく人事を推進する。新病院建設計画を具体化するとともに、病院・
口腔医療センターの経営管理体制の充実に努める。また、看護大学設置のた
めの準備を鋭意進める。さらに、財政基盤維持のため、補助金制度の積極的
活用や寄付金募集の強化を図る。

(6)安全管理、法令遵守について

安全・安心な情報環境を維持するためのネットワーク強化とセキュリティ向上を図るとともに、快適・安全な学習環境に配慮したキャンパス整備を検討する。また、内部監査の実効性を高め、法令遵守を徹底する。

以上を重点項目といたします。

現在を見据え、そして将来を展望した 教育の実現を目指して

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましてはご家族とともに良いお正月を迎えられ、また年頭に当たり、それぞれに今年の目標を立てられたことと思います。

昨年を振り返りますと、2月には前理事長、田中健藏先生のご逝去という深い悲しみの出来事がありました。新理事長、水田祥代先生のご指導と皆様お一人お一人のご尽力により、悲しみを乗り越え、歩ずつ、また着実に大学の新たな活動が進められてきたように思います。私も学長を拝命してもうすぐ1年になりますが、これまでの皆様のご協力に、あらためて感謝申し上げます。と思います。

さて、昨年は、国家試験をふまえた6年生の新たなカリキュラムの構築、共用試験に向けての4年生のコンテンツ作成、さらには低学年の総合試験のトライアル実施と、統合的であり効果的な教育の実現に向けて、いろいろとご尽力をいただき、まことにありがとうございました。国家試験や共用試験については、本学の現況を考えますと、これらの取り組みをさらに充実させていく必要があります。今年もまた大学全体で取り組んで参りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

また、このような学生教育の現況をふまえた対応とともに、大学の社会的使命として、次代の必要とする歯科医師の育成は、特に大切であります。戦略的の大学連携事業として、本学の口腔医学の取り組みは今年で9年目を迎える

今年の干支は「申」です。『みざる、きかざる、いわざる』と言われますが、皆さん大きく目を開いて見てください、耳を傾けて良く聞いてください、そして意見をきちんと言ってください。一人、一人が将来に向けて発展していく大きな芽を伸ばして、学園改革にご尽力いただくことを強く期待し、年頭の挨拶といたします。

福岡歯科大学 大学長 石川 博之



ます。現在の歯科界をとりまく社会の状況を考えますと、全身と口腔健康との関連、医科歯科連携、地域包括ケアなどをキーワードとして、超高齢社会に対応した歯科医師育成のプログラムを進めていくことが重要に思います。

さらに、将来の歯科界のリーダーを育成するべく卒前卒後教育を考えていく視点も大切に思います。卒前からの研究との出会い、未来の歯科医学・歯科医療につながる大学院研究の充実、あるいは研修医修了後の先端的で包括的な歯科医療の教育システム等、学生や若い歯科医師、そして指導者にも夢のある教育を皆様とともに考えていきたいと思っております。

ご存知のように今年の10月には、本学が主幹校となつて第23回日本歯科医学会総会が開催されます。現在、会頭の水田理事長、事務局長の北村常務理事の指揮のもと、着々と準備が進められています。九州での開催は初めてであり、大学にとっては大変名誉なことでもあります。それとともに、この時代に本学に在籍している若い歯科医師や学生にとっては、様々な経験のできるとも貴重な機会になると思っております。在校生や卒業生、そして教職員が誇れる大会となりますよう皆様のご協力をお願い申し上げます。

2016年の干支は、丙申で、樹木が繁茂しすくすくと成長を示しているような年、またこれまでの頑張りや形になっていくような年だそうです。皆様それぞれのお仕事や調子に進み、成果があらわれ、またそれが大学の発展につながる1年となることを願ひまして、年頭の挨拶といたします。